

第1部 「事例発表」

1 「はまっこ森」の活動について

鶴岡市立湯野浜小学校 教諭 齋藤まき

こんにちは。クロマツ林を毎日眺めながら学校生活を送っている湯野浜小学校の齋藤です。よろしくお願ひ致します。

我が校は、平成15年に校舎が新築されました。芝生に覆われたグラウンド、波をイメージした特徴のある校舎、3階には海洋観測展望塔があつて、湯野浜小ならではの設計になっています。

クロマツの樹林と校舎の北側は、ぴったり接している状態ですから、手を伸ばせば、マツをすぐ触る事の出来る環境で子供たちは生活しています。クロマツ林まで移動距離ゼロメートルという恵まれた条件にある我が校が、林野庁の「遊遊の森事業」に加えていただいたのは昨年11月の事でした。「遊遊の森」環境教育プログラムと言うのは、国有林内で森林環境教育の取り組みを行なう際、学習のお手伝いをして頂けるというものです。学習フィールドとして、場の保証だけでなく、人的にも物的にもかなり優遇して頂いております。

この「はまっこ森」というのは、湯野浜小学校の児童が活動できると考えた国有林内の区画に付けた愛称です。子供たちと相談して付けました。

今日は、**2005**年、年が明けてから、今に到るまでの活動を紹介したいと思います。

湯野浜に吹き付ける風は、本当に飛ばされはしないかと思ほど厳しいものです。特に冬、北西の季節風が、海岸から砂を舞い上げながら吹き荒れます。この強い風が「はまっこ森」に入ると、うその様に消えてしまうのです。子供たちが風速観測をしようと言いました。そこで、2月から週2回、合計10回の観測に取り組むことになりました。

観測地点を3ヶ所に決めました。まず、A地点は、波打ち際まで**100**メートルもない最前線です。B地点は、ハマニンニクの原っぱを抜け、松が生え始めたあたりを少し入った所です。C地点は、汀線から垂直に黒松林の断面を考えた時のだいたい中間地点と考えました。

結果は、A地点はこの棒グラフにありますように強風が吹き荒れています。それに対しB、C地点は、風が落ち着く事がわかります。いつ観測してもABCの順番が逆転することは、ありませんでした。子供たちは、当番制でひとり2回風速観測に行く事によって、黒松林が強い風から私達をいかに守ってくれているか身をもって体験してくれました。

4月になって、4・5年がペアになり、協力して**100**本のクロマツの苗を「はまっこ森」に植えました。楽しく作業が進みました。4年生にとっては、この活動が「はまっこ森」に関心を寄せるきっかけにもなりました。人が手がけた植林活動ですからこの先、マツとの関わりがたくさんあるのだということも子供達には伝えました。この時、子供たちが苗の根の回りに白いものを発見したのです。

「これは何だろう？」 その疑問から次の活動に発展しました。白いものの正体は、松露菌でした。



クロマツの根に宿り、共に成長して地上に松露が出てくるというもの。松露は、今ではまぼろしのきのこ。クロマツが人々のエネルギー資源として注目されなくなった事情があり、手入れされなくなったクロマツ林では、松の根が活発に活動出来なくなり、松露は出なくなりました。

このきのこを栽培しようという事で子供たちは今、プランター栽培をしています。が、今の所は、まだ出ていません。

夏は、雑草がはびこるシーズンです。4月に植林した黒松の苗は、回りから雑草に覆われてしまいました。暑い盛りの7月の中旬と9月の初めに子供たちと下草刈をしました。がんばってこれくらいまでは、きれいにしたつもりでいます。

そして10月、全校一斉の縦割り班で、「はまっこ森オリエンテーリング」を開催しました。クロマツ林への関心をもたせたいという願いで、各活動のねらいをはっきりさせて取り組みました。ねらいというのは、丸太切り大作戦。「みんなで協力して切ろうね」と呼びかけました。

林内には、植林されてからまだ、年数の浅い樹木があります。そうした幼樹を1本1本数える、そういうクイズもしました。

カモフラージュは、オリエンテーリングの中で人気のあったネイチャーゲームのひとつです。「浜の方に向けて形を探せ」というゲームもしました。砂草捜索隊というのは、砂原の地面に生えている、こっそり生えているような可憐な小さな花を子供たちに探してもらいました。ハマニガナとウンランの2種類だけがこの時期かろうじて咲いていました。

ハマニンニクの原っぱを子供たちに歩かせたいなと思いました。砂地とは違い、ふかふかの感触を確かめてもらいたいなと思ったのです。

さきほど、我が校の自慢をお話しましたが、海洋観測展望塔というのは、松林を一望出来る高い所にあります。この機会に1人1人展望塔に上り、クロマツ林を眺めさせたいと思いました。

活動が終わってから子供たちに振り返りを書いてもらいました。

「どの活動が一番楽しかったか？」カモフラージュと丸太切りが、一番人気があったようです。砂草とか宝捜しなどは、実際子供たちには、人気がなかったようです。

庄内森林管理署のお世話になっている「遊遊の森」同士の交流も行ないました。お互いのフィールドを訪れ活動をしました。10月14日、羽黒第二小学校の「わくわくの森」で山取りやグループごとの遊び、クラフト造りをしました。ブナの実を食べて楽しんで帰って来ました。10月21日、「はまっこ森」で、オリエンテーリング交流バージョンをやりました。この活動で、「わくわくの森」は山と、「はまっこ森」は海とつながりがあるのだと子供たちは気づきました。

以上の活動から子供たちとクロマツ林をつなぐ、足がかりが出来ました。来年度は、職員がさらに創意工夫をこらし、子供がもっともっと「はまっこ森」に関心を寄せ、活動を充実させて行きたいと思います。

これまででも、多くの方々にお世話になりました。「はまっこ森」の協定は、5年ありますから、これから先もまたよろしくお願ひしたいと思います。

これで終わります。お聞き頂いてありがとうございました。

2 「笑顔いっぱいわくわく夢の森」

酒田市立西荒瀬小学校 4 年生 進藤 綾 (しんどう あや) 富塚 侑 (とみづか ゆう)
堀 竜馬 (ほり りょうま) 佐藤 葵 (さとう あおい)

進藤 綾

西荒瀬地区は、昔から風で飛んで来る砂の害で苦しんでおり、それを防ぐためにもマツは、無くてはならないものです。今から約 230 年前、西荒瀬の先人、堀善蔵、豊次親子を中心としてクロマツの植林をし、今の豊かなクロマツ林になっています。

私たちの学校には、「わくわく夢の森」という学習林があります。平成 16 年度から総合的な学習の時間で、学習林の取り組みが始まりました。



富塚 侑

初めの年は、去年の 4 年生、今の 5 年生が、森を育てていくためにも、学校、公民館、地域、PTA と協力し、庄内総合支庁の方々から教えてもらいながら、植附場之碑の前に 100 本の苗木の植林を行ないました。

秋には、遊歩道を作る為にチップも敷きました。チップを運ぶときは親子でバケツリレーを繰り返しながら、何時間もかけてがんばりました。チップがある所は、じゅうたんが敷いてあるみたいになかふかして、歩きやすくなりました。

進藤 綾 (作文)

2 年目の今年の春、私たち 4 年生の親子も、西荒瀬小学校では 2 回目となるマツの植林をしました。庄内総合支庁の方が来て、松の植え方を教えてくれました。1 人 1 人軍手をはめて、スコップを持って、松を植え始めました。

松は、植附場之碑前と学習林に約 150 本植えました。両手をこのように広げ回して、松を植える穴の大きさを測りました。その穴をスコップで掘って、松の苗を植えました。スコップでちょうどいい深さに掘ったり、松を倒さないように土をかぶせるところをがんばりました。

今は、松を植えて何年も経っていないけど、何百年もかけて大きく育ててほしいです。そして、酒田の人たちを守ってほしいです。

堀 竜馬 (作文)

僕たちは、樹木に名前が分かるようにプレートをつけました。いくつかのグループに分かれて、プレートをつけて行きました。庄内総合支庁の方々が、1 本 1 本丁寧に説明してくださったので、特徴などが良く分かりました。

マツにもクロマツ、アカマツの二種類があることも分かりました。違いは触ると分かります。クロマツは触るとチクチクして痛く、アカマツは触ってもあまり痛くありません。

また、この時は、コブシに花が咲いているのを見ることが出来ました。わくわく夢の森には、樹木や植物がたくさんあります。花が咲く木、実のなる木など、季節によっても景色が変わります。

まだまだ知らない木、実、植物がたくさんあります。これからもわくわく夢の森に何回も行って、いろんな木や植物の事を見てみたいです。

佐藤 葵（作文）

また、春から何度も学習林に足を運び、どんな植物があるのか、どんな木があるのかなど観察してきました。秋には、出会いの広場（どんぐり広場）に基地作りがスタートしました。私たちは、学習林で自分たちの基地作りに励んでいます。前までは、1つしか無かった基地がひ1つから2つ、2つから3つと増え、「わくわく夢の村」が出来ました。基地で木の実を集めたり、木の枝を探したりしています。基地に使っている木の枝は、「わくわく夢の森」から拾って来た物を使っています。

看板なども立てています。大きい葉っぱの中に花を入れて、細い葉っぱで結んで花束を作ったり、葉っぱを利用して、色々なものをたくさん作っています。

時々、基地になめくじなどが現れて、少し騒ぎになった事があります。へびの抜け殻を見つけた事もあります。カマキリもたくさんいて、虫かごで飼っています。学校で卵を産み、赤ちゃんが産まれました。基地は、木の棒を円のようにして丸く囲むように建てます。そして、円で囲んだ中に、ワラみたいなものを全体に敷けば出来上がりです。

「わくわく夢の森」もそろそろ冬の足音が近づいて来ます。冬になったら、「わくわく夢の森」はどうなるか楽しみです。

富塚 侑（作文）

秋には、親子で「わくわく夢の森」へ鳥を呼ぶために巣箱作りをしました。1枚の板を寸法どおりのこぎりで切るのが、ずれたり、回ったり大変でした。板を組み立て、釘を1本1本金づちで打つのが、難しかったです。少しずつ形になっていくのが楽しくて夢中になりました。巣箱に名前を書きました。僕の作った巣箱には、どんな鳥が住んでいるのだから？住みごころは、どうだろう？寒い冬を暖かく過ごしてほしいと思いました。

大きな巣箱、小さな巣箱、ひもを付けた巣箱、みんな一生懸命作りました。春になって小鳥が巣箱から飛び出す姿を思うと、僕までわくわくします。作った巣箱に毎年、鳥が来るようになって、色々な鳥のわくわく夢の森になってほしいです。

堀 竜馬

5年生は、酒田・北区農業体験交流で、稲刈りに来た東京の友達と「わくわく夢の森」で遊びました。東京の子達は、大喜びで木登りをしたり、どんぐり拾いをしました。落ち葉で作ったしおりやどんぐりで作ったこまをプレゼントしました。5年生は他にも10月にマツの木の枝打ちをし、うっそうとした森をきれいにしました。これで、マツが成長しやすくなります。

佐藤 葵

夢の森は、私たち4年生や5年生だけでなく、木曜日のロング昼休みにも1年生から6年生まで、遊びに行きたい子たちは、先生と一緒に掛掛けて楽しんでいます。

来年からは、植林や枝打ちの他にも生活科で利用したり、夢の森での活動をさらに広げて行きたいと思っています。みなさん是非、遊びにおいで下さい。

3 「インターンシップイン遊佐ー砂防林整備活動ー」について

遊佐町立遊佐中学校3年生 伊藤葉月（いとうはづき） 池田有輔（いけだゆうすけ）
佐藤元気（さとうげんき）

伊藤葉月

遊佐町のシンボルとも言えるクロマツの砂防林は、多くの先人たちにより植林され、私たちの暮らしと産業の基盤になっている歴史的遺産です。近年、手入れ不足や松くい虫の被害による松枯れなど、大きな問題になっています。

遊佐中学校では、4年前から私たちが住んでいる遊佐町に少しでも恩返ししたいという事と、忍び寄る松枯れの実態を知り、松林を守ることが、私たちの生活を守ることになるという事から、3年生が砂防林整備活動を行なっています。

私たちは、1年生の時、道徳講話で遊佐町の偉人である佐藤藤蔵についてお話を伺いました。その時、初めて、佐藤藤蔵の偉業を知りました。

また、整備活動の前に庄内総合支庁森林整備課の梅津さん伊與田さん達においで頂き、事前学習会を行いました。梅津さん達は、砂防林の重要性や松林の歴史、松くい虫について、とても分かりやすく話して下さいました。そして、作業の為の事前準備についても教えて頂きました。

9月14日、砂防林整備活動の日です。私たち3年生179名は、十里塚海岸脇の松林を整備しました。1班18名の10班に分かれて、決められた場所の下刈りや3~4メートルにも伸びた竹を根元から切る作業をしました。この写真は、作業の前に担当の方から説明を受けている所です。

10分位作業をすると、額から汗が落ちて来ます。切り取った竹をこのように、道路脇まで、運びました。作業を始めるとみんな夢中になって、どんどん前に切り進んで行きました。

担当の方々は、私たちが怪我をしない様、細心の注意をはらって下さいます。時には、大きな声で、怒鳴り声が聞こえる事もありました。鎌の使い方も自分だけではなく、周りの人も怪我をしないよう、厳しく教えて頂きました。

刈り取った竹はすべてチップにします。遊佐森林組合の方々、機材を提供してくれました。このチップは肥料として自然に返されます。作業は2時間位だったのですが、みんな汗びっしょりでした。作業の後、鎌やのこぎりの手入れをしてすべての作業が終了となります。

最後に閉会行事を行いました。私たちの砂防林整備活動は、庄内総合支庁森林整備課、遊佐森林組合、庄内森林管理署など、多くの方々のご協力を得て行なわれています。初めての体験でしたが、私たちは怪我もせず、とても気持ちの良い汗を流す事が出来ました。この場をお借りして、皆様に心よりお礼申し上げたいと思います。

そして梅津さんに、「去年の3年生が最高だと思っていたが、今年の3年生はそれ以上だった。」と、おほめの言葉を頂く事が出来て、とっても嬉しく思いました。

私たちの作業の様子は、テレビやラジオの取材を受けて報道されました。

池田有輔

最後に感想を發表します。

僕は、砂防林を整備して、改めて砂防林の大切さを理解しました。僕は、十里塚に住んでいます。



生まれてから13年間、砂防林というものが一体何なのか全く分かりませんでした。中学1年生の頃、総合的な学習の時に本で詳しく調べたり、お話をお聞きしたりして、初めて砂防林という存在に気づき、同時に佐藤藤左衛門についても詳しく知ることが出来ました。

それから2年後、僕たちが砂防林の整備にあたる前に事前学習として、梅津さん達の話をお聞きしました。そこで驚いた事に、自分が1年生の時に学習した事は主に200年位前の話でしたが、戦後の頃、今から5~60年前にも、大昔と思われていた砂の被害が起っていました。砂で埋れた家や傘をさしてご飯を食べている様子など、とても衝撃的でした。

このような事をふまえて、僕は、おじいさんやおばあさん、佐藤藤左衛門さん、今もお砂から守ってくれている砂防林に感謝の気持ちを込めて、恩返しをするという思いで整備に臨みました。

整備をするにあたって驚いた事は、自分の身長以上の草木が茂り、立っている足場も全部砂だった事です。自分が担当したのは、鎌で必要のない木や草などを刈る仕事でした。

初めは「こんなヤブをきれいに出来るのだろうか?」「こんなヤブの中に入っても大丈夫だろうか?」と不安でいっぱいでしたが、一度作業に入ると集中し、次から次へ刈って行く気持の良さや、何があるのだろうという期待が楽しさになり、みんな除々に口数が減っていき、時間を忘れるほど作業に没頭していました。

今回、この様な形で、僕は砂防林に恩返しをする事が出来ました。これからは、今まで守って来てくれた分、今度は自分たちが守っていく番だと感じました。この整備をした経験を自分から子へ、子から孫へと語り継がれるようにしたいと思いました。

佐藤元気

僕は、このインターンシップイン遊佐「砂防林整備活動」に取り組んで、とても良い体験だったなと思います。活動前の事前学習では、佐藤藤左衛門、藤蔵さん親子をはじめとする英雄たちが、飛び交う砂の中で必至に植林を行なった大変さや、砂の飛び交う遊佐町を再び元の遊佐町に復活させた偉大さがとても良く伝わって来ました。

砂防林整備の方は、最初に暑い中森林組合のみなさんを始めとする木のプロフェッショナルの指導の元、みんな一生懸命に自分の与えられた場所の草や木を刈り取ったり、竹を切ったりと頑張りました。この活動を終えて、自分の刈った場所を見てみると、とても綺麗になっていて良かったと思いました。

現在、砂丘地に植えられている松は、松くい虫や大気汚染などの影響で、年間約2万本ほど枯れているという事実を知って、これはなんとかしなければならぬと思いました。もちろんこの砂防林整備活動も一つの「マツを守っていく活動」ですが、環境を守っていく事も一つ「松を保護していく活動」だと思います。環境を守るという事は、もちろん大切な事ですが、さらに大切なのは、環境を育てて行くという事だと思います。

これから自分は、この体験を元にして、未来の遊佐町を守っていく為に今回の様な活動があったら、積極的に参加したいと思います。また環境を汚さない為にゴミを捨てないようにしたいです。小さな活動もやがて大きな成果となって行きます。佐藤藤蔵さんをはじめとする偉人達がここまで苦労して植えた松を絶やさないように、まず自分たちが行動していきたいです。

遊佐の森林は、未来へと続く永遠の遺産なのであります。

これで遊佐中学校の発表を終わります。

(司会)

ありがとうございました。今日はテスト前の大変忙しい時期だったそうです。どうぞテストの方もがんばってください。以上、湯野浜小、西荒瀬小、遊佐中学校の3校の発表を終わります。どうぞ、下級生にも語り継いで、継続した活動をお願いしたいと思います。引率の先生方、生徒さん方、今日はどうもありがとうございました。

つづいて映像レポートをご覧頂きます。昨年「映像でつづる植林の歴史」をご覧顶きましたが、感動と涙の思い出がございます。今年はよりバージョンアップいたしまして、ナレーションを入れました。制作は庄内総合支庁森林整備課の梅津勘一さんです。そして本間家当主の本間万紀子様との絶大な協力を頂きて、元NHKのアナウンサーの高橋まゆみ様からナレーションを入れて頂きました。約25分の上映です。「庄内砂丘砂防林物語」をご覧下さい。

(上映)

(司会)

松くい虫被害の問題は、日本にとどまることなく、お隣の韓国でも問題になっております。韓国の放送局が日本の松林事情を取材いたしまして、韓国国内で放送され、大変な反響を呼んでおります。その放送の一部をご覧頂きます。

(梅津)

韓国の大邱放送の「危機の松」という番組をダイジェストでお見せいたします。今年は韓国から既に4回お客さんが来ています。正月にKBSの取材があり、その番組を見た鎮海市の市長さんをはじめとする視察団が2月に訪れました。5月に大邱放送の取材があり、7月にその内容が前編、後編全80分の番組として放送され、反響を呼び、再放送も行われたそうです。

また10月には日本海岸林学会が、韓国の海岸林研究会との合同で、初めて韓国の春川市で開催され、山形大学のみなさんと一緒に我々も韓国に行き、交流を深めてまいりました。そしてつい先日ですが、学会で知り合った韓国のNGOの方々が庄内海岸林を見に訪れました。このように今庄内では、海岸林を通じて韓国との交流が始まっております。

韓国では、かつてはげ山が多かったところにマツが生えてきたということで、非常に若い松林が多いのですが、今、釜山から侵入した松くい虫被害が広がってきています。日本からうつしたのです。釜山からすごい勢いで朝鮮半島の南部に広がっておりまして、全山はげ山と化したところもあり、非常に危機感を強めている。そのようなことで大邱放送が、韓国の人々に松くい虫についての普及啓発を図る目的で制作したのが、今日ご紹介する番組です。その中では、庄内海岸、秋田海岸、松島の映像なども紹介されております。韓国でどのように日本の状況が紹介されているのかご覧下さい。

(以後 内容を解説しながら上映)